

<参考資料>

■日本グリーンパックス鏡石町太陽光1号発電所の概要

建設地: 福島県岩瀬郡鏡石町南高久田376他

太陽光発電出力: 約300kW

年間推定発電電力量: 約332,130kWh (※1)

一般家庭に置き換えると、約100世帯分をまかなえる発電量 (※2)

年間CO2排出削減量: 約104,455kg/年 (※1)

約7,461本の杉の木を植えた場合のCO2吸収量と同等 (※3)

施設対象面積: 6012.69㎡

稼働開始日: 2013年7月9日

発電電力使用方法: 原則、全量を東北電力に売電

※1 当社利用のシミュレーションシステムによる試算

※2 平成23年の東京電力区域内の一軒あたりの使用量、約280kWh/月で計算

※3 杉の木換算: 杉の木(樹齢50年、高さ約20~30m)1本が年間に平均して吸収するとされるCO2の量を約14kgとして計算。(環境省・林野庁 地球温暖化防止のための緑の吸収源対策より)

■今後当社が行っていく「地域連携型太陽光発電所」としての取り組みについて

①災害時に防災拠点として開放し、2号発電所の電力を無償提供

- ・敷地内に水・備蓄食料品・防災備品などを備蓄、広く防災拠点として開放
- ・電力供給が寸断した場合には、2号発電所の電力を防災拠点用に無償提供
- ・太陽光発電設備を活用した防災拠点のモデル事業として運営

②周辺地域の教育機関・NPOに環境学習の場として開放

- ・自然エネルギー発電設備の施設見学希望者の受け入れ
- ・ビオトープの設置
- ・地域のNPOなどへの施設開放・活動拠点の提供

③各種の検証を行い、より効率的な太陽光発電設備設計のための技術・ノウハウを蓄積

- ・より良い施工方法・部材の検証
- ・防草シートや反射シートなど、発電所運営に必要な部材の選定
- ・パネル洗浄や防汚コーティングなど、発電量の維持・向上に連携するメンテナンスサービスの検証
- ・発電量及び発電所状況監視システムの検証

■モジュールメーカー「ハンソル」について

ハンソルグループは、1991年にサムスングループから独立したチョンジュ製紙が、社名をハンソル製紙へ変更したことからはじまりました。その後、製紙に加え、インテリア、精密化学品、建築・レジャー施設開発、物流、IT、そして環境へと事業分野を拡大しました。

現在、9つの企業を傘下に有し、素材事業とソリューション事業の2つの柱で、韓国を牽引する企業グループへと発展を遂げています。

ハンソルテクニクス株式会社は、ハンソルグループの精密機器・部品メーカーとして1995年に設立されました。

現在の生産品目は、液晶モジュール、バックライトユニット、インバータ等のパワーモジュール、LEDなどの照明、サファイアやシリコンのインゴット及びウェハ、そして太陽光発電モジュールと、非常に多岐に渡っています。

太陽光発電モジュール事業は2010年に着手。基礎となるインゴット及びウェハの製造メーカーとして蓄積したノウハウを活かし、厳密な製造基準に基づいて素材を調達することで、高品質と適正価格の維持を実現しています。